

## 福井県和泉村における高齢者介護福祉施設

前田博司\*・前田剛司\*\*

### Care Welfare Establishments for the Aged in Izumi Village, Fukui Pref.

Hiroshi Maeda and Takeshi Maeda

This paper analyzes present state and problems of care welfare establishments for the aged in Izumi village to give an example of the heavy snow area by means of the questionnaire investigation to inhabitants. As a result, followings are clarified.

1) Considering the scale of the village and conditions of location, it can be said that it is very satisfactory about the establishments.

2) There are many people who feel a worry for the service in the snow.

3) Children have interest in the interchange with the aged, and establishing as an annex of the educational facilities and the welfare establishment lacks resistance as for them.

#### 1. はじめに

近年、わが国においては、戦後の経済成長により国民の生活水準は向上し、医学・医療技術の進歩も相俟って、平均寿命は著しく伸張した。そして、2020年には人口のおよそ1/4を65歳以上の高齢者が占める高齢社会が到来するといわれている。このような状況の中で、2000年4月より介護保険法が施行され、介護福祉制度が大きく変化した。すなわち、福祉と医療という異なる制度の下でばらばらに提供されてきた介護サービスが、それぞれの制度から独立して、社会保険方式の互助制度として実施されることとなった。このため、地域における介護福祉施設やサービスの充実が必要とされている。しかし、多雪地の多くは大都市への人口流出による過疎化が進み、高齢化傾向が顕著であると同時に、施設の整備も財政的に困難であることが多いなど、多くの問題を抱えている。

本研究は、わが国でも有数の多雪地である福井県和泉村における高齢者介護福祉施設およびサービスの現状を調査するとともに、住民に対してアンケート調査を行い、現状の問題点および今後の課題を明らかにしようとするものである。

#### 2. 調査の概要

##### (1) 和泉村の現況

和泉村は、福井県の東端にあつて岐阜県に境を接し、面積332.38km<sup>2</sup>・人口814人(1999年3月31日現在)の山村で、中竜鉦山の休鉦以来、キャンプ場やスキー場など、観光が主要産業となっている。

人口構成は、図1の通りであり、65歳以上の高齢者数は235人(高齢化率28.87%)、そのうち75歳以上の後期高齢者数は93人(後期高齢化率11.43%)である(1999年11月現在)。

##### (2) 和泉村における介護福祉施設

和泉村には、高齢者社会福祉センターと診療所があるだけで、特別養護老人ホーム・老人保健施設・療養型病床群等はなく、近隣市町の村外施設で対応している。因みに、和泉村から村外の特別養護老人ホームへは8人、養護老人ホームへは2人、老人保健施設へは1人入居しており、入居待機者はいない(いずれも1999年4月1日現在)。

高齢者社会福祉センターは延床面積約1000m<sup>2</sup>で、デイサービスを含み、過疎地域での介護支援機能や地域住民との交流機能を提供する高齢者生活福祉センターと同等の機能を果たしている。

\* 建設工学科建築学専攻 \*\* 応用理化学専攻大学院生

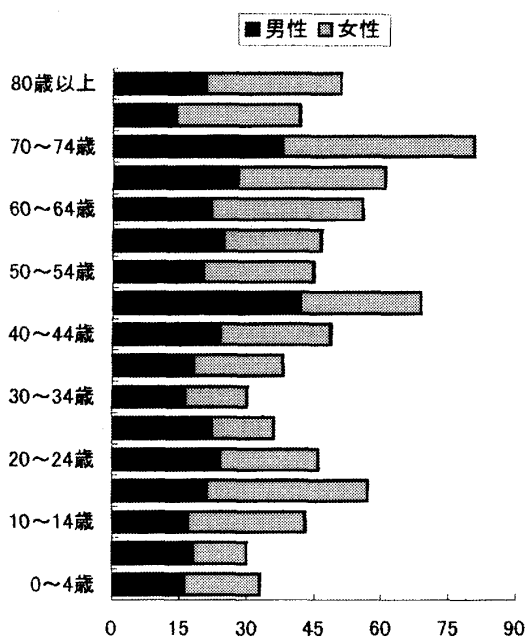


図1 和泉村の人口構成

また、診療所は、延床面積約 300m<sup>2</sup>、病床数は 0 で、内科と歯科があり、それぞれ 1 名の医師が常勤している。

### (3) アンケート調査

住民に対するアンケート調査は、居住が確認された 217 世帯のうち、調査の承認が得られた 167 世帯に用紙を配布し、147 世帯から回収した。実質回収率は 88.0%であった。調査内容は、家族構成・要介護認定者数・サービス利用の有無・介護福祉施設への要望・高齢者の生活・介護福祉に関する意見等である。

また、同時に村内の朝日小学校児童 38 人と和泉中学校生徒 23 人に対するアンケート調査を実施し、いずれも 100%の回収を得た。調査内容は、高齢者との同居の有無・高齢者との交流・高齢者福祉施設と教育施設との併設に関する意見等である。

## 3. 住民へのアンケート調査の結果

### (1) 家族構成および要介護認定者数

65 歳以上の高齢者がいる世帯は 66%で、そのうち高齢者のみの世帯は 16%であった。また、家族に要介護認定者がいる世帯は 10%あり、要

介護度は、1:3 人、2:4 人、3:0、4:3 人、5:2 人であった（他は無回答）。

### (2) 施設・サービスの利用状況と希望

65 歳以上の高齢者に、どのような施設を利用したことがあるか（複数回答）を聞いた結果は、図 2 のようであり、「高齢者社会福祉センター」が最も多く、次が「介護利用型軽費老人ホーム」であった。

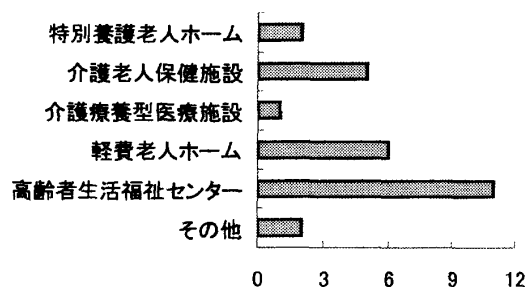


図2 施設の利用経験

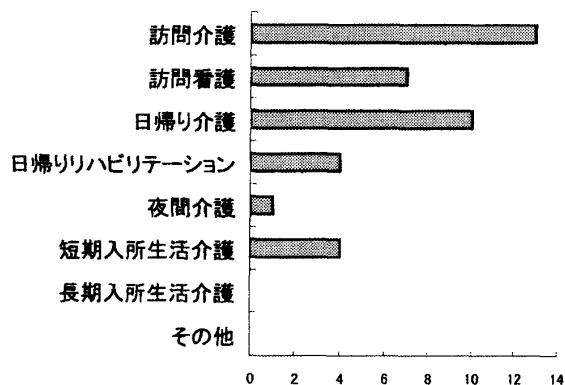


図3 サービスの利用経験

また、どのようなサービスを利用したことがあるか（複数回答）を聞いた結果は、図 3 のようであり、「ヘルパーによる訪問介護」が第 1 位であった。

これに対し、65 歳以上に限定せず、全員に今後どのサービスを利用したいか（複数回答）を聞いた結果は、図 4 のようになり、図 3 とほとんど順位は同じであるが、利用経験のない「長期入所生活介護（ロングステイ）」が第 6 位に入った。

サービス内容の希望は、訪問介護では「日常生活の世話」、訪問看護では「健康相談」、日帰り介

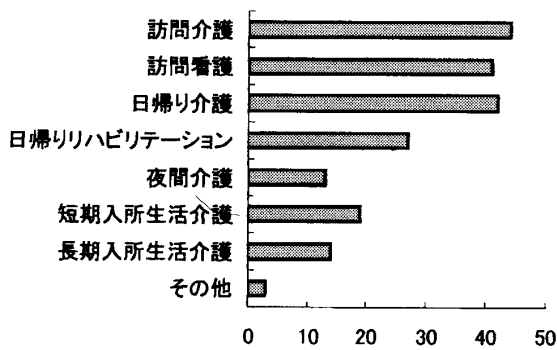


図4 サービスの利用希望

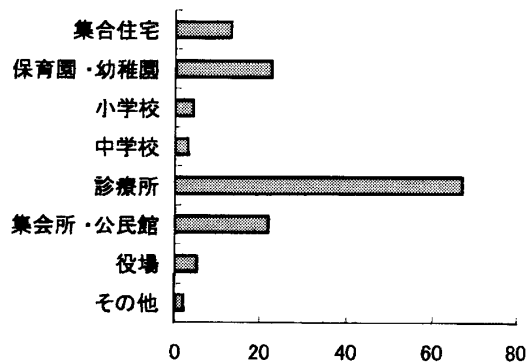


図7 併設を希望する施設

護では「食事・入浴」がそれぞれ第1位であった。

#### (4) 介護福祉施設の場所・他施設との併設

介護福祉施設がどのような場所にあればよいかの質問に対しては、図5のように、「静かな自然の中」の希望が46%と最も多かったが、「一般の住宅がある場所」も22%の希望があった。

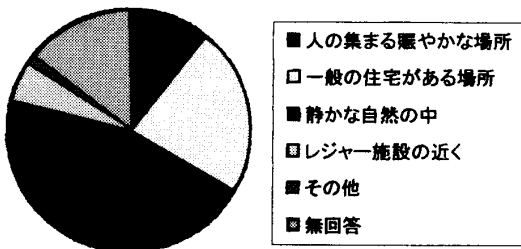


図5 施設の場所の希望

介護福祉施設に他の施設が併設されることには62%が賛成であり、反対は14%に過ぎなかった(図6)。併設されるとよい施設(複数回答)と

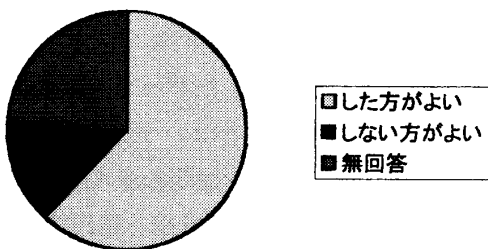


図6 他の施設の併設

しては、「診療所」が群を抜いて第1位で、「保育園・幼稚園」と「集会所・公民館」が第2位であった(図7)。

#### (5) 老後の生活

介護福祉に関して不安を感じていること(複数回答)は、図8の通りである。「積雪時」に不安を感じている人が最も多く、施設の利用や訪問介護・訪問看護のサービスに不安をもっているようである。また、「入院施設の不足」「緊急時の対応」は、診療所に入院設備がないからである。ただし、診療所が往診を行っていることは78%が知っており、介護福祉と医療機関の連携にも満足している人は多い。

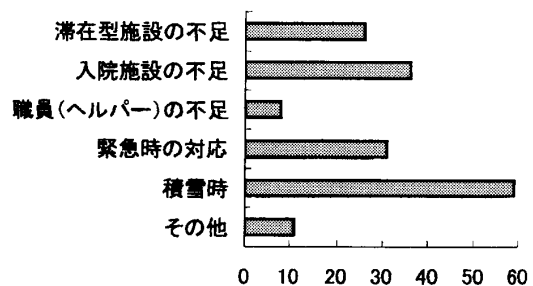


図8 介護福祉に関する不安

老後の生きがいづくりとしては、「園芸」「観劇・映画鑑賞」「子供たちとのふれあい」「団体旅行」等が人気があり、「健康教室」への参加に希望が多かった。

これから先(老後)、施設での生活を望むか、

在宅での生活を望むかの質問に対して、「ぜひ施設にしたい」と「条件が合えば施設がよい」を合わせても18%であるのに対し、「ぜひ在宅にしたい」と「なるべく在宅がよい」は合わせて45%で、在宅介護への希望が多い(図9)。また、和泉村から離れたと考えているのはわずか7%であった。これらのことから、多雪地であり、過疎化が進み、観光以外の主な産業もない場所ではあるが、将来もこの土地に住み、在宅で介護を受けたいという希望が強いことがうかがえる。

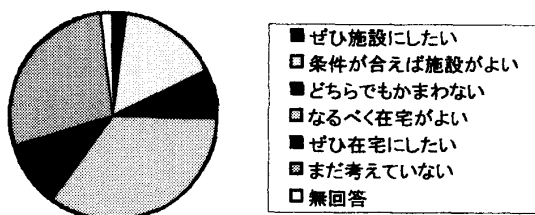


図9 施設介護と在宅介護

#### 4. 児童・生徒へのアンケート調査の結果

##### (1) 高齢者との交流

福祉センターへ高齢者に会いに行くのは、小学生の6名だけが「時々行く」と答えただけであったが、小学生の63%・中学生の39%が「高齢者と一緒にいる時間をもちたい」と答えている。また、高齢者と一緒にの行事には、小学生の66%・中学生の22%が積極的に「参加したい」と考えている。

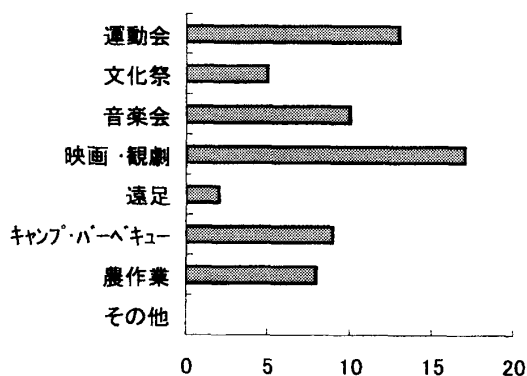


図10 高齢者と一緒にしたい行事等

その内容(複数回答)は、図10のように、「映画・観劇」が第1位で、「運動会」が第2位であった。

また、高齢者から学びたいと思っていること(複数回答)は、図11のように、「昔話や遊び」や「生活の知恵」が多く、小学生では「農作業」「料理」、中学生では「料理」も多かった。一方、「しつけ・マナー」や「勉強」は少なく、特に中学生では1人しかいなかった。

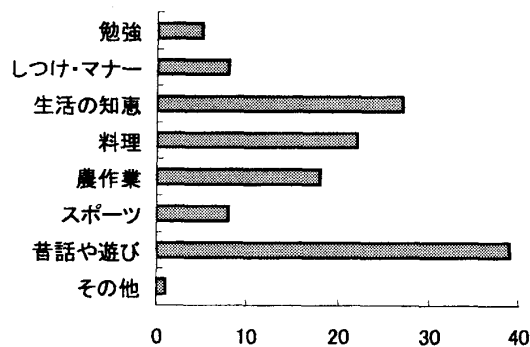


図11 高齢者から学びたいこと

学校の近くに高齢者介護福祉施設があることについては、図12のように、80%の児童・生徒が「いいと思う」と答えている。

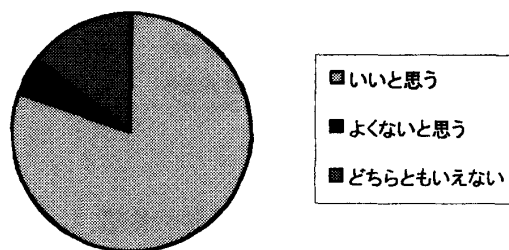


図12 学校の近くの高齢者施設

#### 5. 問題点の分析と解決への提案

##### (1) 診療所と介護福祉施設の入院・滞在設備

和泉村の高齢化率は28.87%で、すでに超高齢社会に突入している。したがって、介護福祉施設の充実が必要であることはいうまでもない。しかし、交通や需要数の点で民間の参入は困難であり、財政規模から多くの公立施設を建設することもできない。そこで、村では、診療所および高齢者社会福祉センターに入院設備や滞在設備は設けず、大野市・勝山市あるいは岐阜県白鳥町など、

近隣の市町の施設を利用することになっている。その代わりに、診療所に歯科を設置したり、高齢者社会福祉センターにデイサービスセンターを併設するなど、サービス内容の充実を図っている。住民からは入院・滞在型施設の設置の希望は多いものの、この方針は成功しており、村の規模や立地条件を考慮すれば、介護サービスはかなり充実しているといえる。

しかし、住民は診療所での入院や高齢者社会福祉センターでの短期～長期入所介護への希望が強く、何らかの方法でこの問題を解決することが望ましい。

そこで、この問題の解決方法の一つとして、いくつかの施設を併設し、機能を集約することによって合理化を図り、滞在設備を設けることが考えられる。

## (2) 医療施設との併設

施設の併設については、住民の賛成も多い。特に、介護福祉施設と診療所の併設の希望が多い。これに対して、ヒアリングによれば、村では施設内感染の危険性を危惧して、併設を計画していない。しかし、診療所の医師や高齢者社会福祉センターの職員は、この問題に関して楽観的であり、むしろ併設することによって病気の早期発見や予防が容易になり、治療と機能回復を一つの施設で行うことができることによる機能性および採算性を評価している。また、健康および介護に関する知識の啓蒙や病気克服意欲の増進にも有効であると考えられる。

## (3) 教育・研修施設との併設

介護福祉施設と教育施設の併設も賛成が多い。特に、保育園・幼稚園との併設が望まれている。また、児童・生徒の側も施設の併設に抵抗は少なく、高齢者との交流にも積極的である。

子供たちと交流する機会が多いことは、高齢者が生きがいをもつことにも役立ち、精神的にも身体的にも機能回復の補助として効果があると考えられる。

住民に対するアンケート調査の結果では、積雪時に不安を感じているという回答が多かった。特

に、中心の集落から離れたところに住む高齢者のみの世帯で著しい。この問題について、村では、冬季だけでも滞在できる施設の必要性を認めているが、財政的に困難である。近年、「山村留学」と称して、都会の児童・生徒を山村に滞在させ、自然と触れ合ったり、伝統文化を学ぶような試みが盛んである。また、企業や団体が宿泊を伴う研修が行われることも多い。これらのための宿泊施設を設け、積雪期には高齢者の滞在施設とすることも考えられる。

## 6. むすび

和泉村における高齢化対策、特に介護・福祉サービスには住民の大多数がおおむね満足しているといえる。しかしながら、施設サービスにおいては、長期入所介護施設の村内設置の希望が根強く存在している。これは、介護施設のみならず、医療機関への入院施設の設置の希望と重複している。これに、「在宅で生活をしたい」という希望が45%を占めたアンケート結果を考慮に入れると、可能な限り「自宅で介護・福祉サービス」を受け、在宅介護・療養が不可能になっても「村内を離れたくない」というのが、住民の大多数の希望であると考えられる。これに対し、長期入所の出来る介護施設や入院施設を新たに別個に設立し、また運営していくことは、職員の確保や財政面からもかなり困難であると考えられる。

そこで、解決策の一つとして、宿泊施設を持つ研修施設やグループ・ホーム、高齢者社会福祉センター、医療機関等を集約した総合的な施設を設置し、合理化を図ることを提案した。小中学生へのアンケート調査の結果からも、彼らが高齢者との交流について抵抗を感じているどころか、むしろ積極的に推進しようという意思が感じられる。この場合においては、院内（施設内）感染の問題が生じてくることが考えられるが、これは重要な問題ではない。なぜならば、厚生労働省のガイドライン等を遵守することにより、院内（施設内）感染を予防することが十分に可能であるからである。

また、積雪時および緊急時の対応に不安を感じているが、交通手段の確保ならび有線あるいは無線での各世帯のネットワーク化による対応も解決策となろう。このことにより住民の希望である可能な限り「自宅で生活をしたい」という希望にも対応できると考えられる。

#### 謝辞

本研究を遂行するに当たり、ご協力いただきました和泉村役場および住民の皆様に厚く感謝いたします。

#### 《参考文献》

- 1) 福井県和泉村：和泉村老人保健福祉計画(見直し)・和泉村介護保険事業計画，福井県和泉村，2000.3
- 2) 福崎恒：高度先進医療から地域ケアの実践まで，金原出版，1999.3
- 3) 平松一夫：介護保険と福祉施設サービスの戦略，医歯薬出版，1998.11

(平成13年12月6日受理)